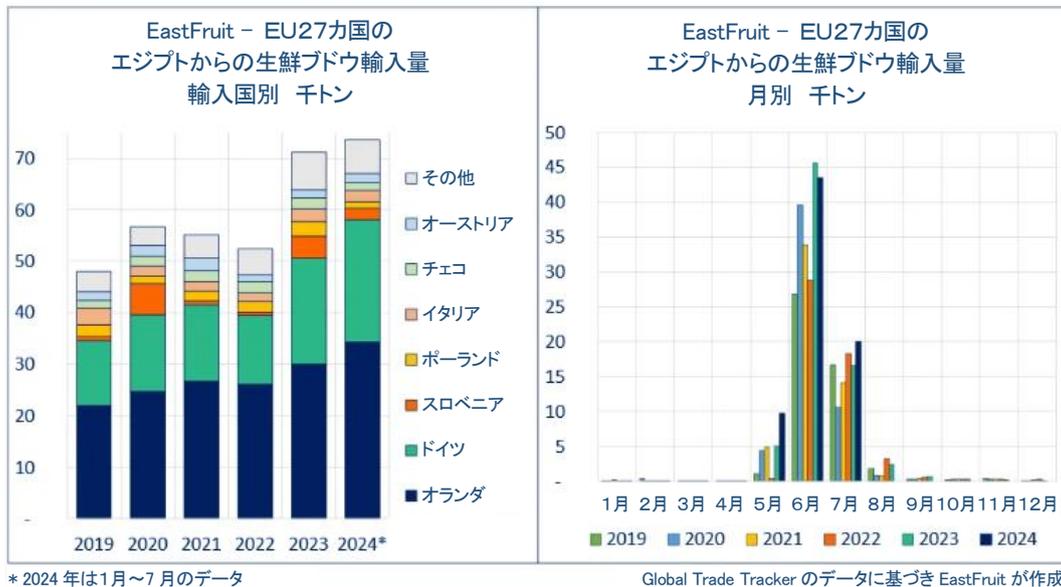


## エジプト EU向けブドウ輸出が新記録へ

EastFruit 2024年10月24日

エジプトの生鮮ブドウ輸出業者は今年、EU諸国への輸出で前年の成功に匹敵するばかりか、新記録を樹立するとEastFruitが報じている。エジプトは2023年に過去最高の7万トンの生食用ブドウをEUに輸出したが、発表が待たれる8月の貿易データ次第では、今年はその数字が7万5千トンに達する可能性がある。



エジプトは、オランダとドイツという2つの主要なEU市場で存在感を大幅に高めており、これら2カ国を合わせるとエジプトの全輸出量の70%から75%を輸入している。2024年1月から7月までに、3万4千トンの生鮮ブドウがオランダに輸出され、これは2023年の合計より14%多かった。同じ期間のドイツへの輸出量は16%増の2万4千トンであった。

アイルランドは今年、エジプト産ブドウの輸入量が2倍以上の2,400トンに増加し、第3位の輸入国に浮上した。一方、イタリアは2,300トンで順位を1つ下げ、スロベニア、オーストリア、チェコ、フィンランド、ポーランド、スペイン、その他いくつかの少量の輸入国がそれに続いた。

エジプトは、引き続き他の供給国に対する季節的な優位性を活用し、6月と7月にはEUへの生鮮ブドウのほぼ唯一の輸出国であった。しかし、夏の期間はヨーロッパの消費者にはベリー類、核果類、メロンなど、輸入ブドウに代わる多くの域内産品があるため、この同じ要因(6月と7月の供給量の多さ)が、エジプトの輸出が急増する可能性を制約している。

それにもかかわらず、エジプトはEUへの生鮮ブドウ輸出国の中で、南アフリカ、ペルー、インド、チリに次ぐ5番目の地位を保っている。これらの上位5カ国のうち、エジプトとペルーだけがEUへの輸出を大幅に増やし、2019年から2023年の間にその存在感を1.5倍に増やした。増加率の点では、2023年に輸出が80%増加して3万8千トンとなったモルドバだけがそれを上回っている。

昨年、EU諸国は2022年よりわずかに少ない合計84万1千トンの生鮮ブドウを輸入した。今年の輸入量は、最初の7カ月で66万4千トンに達し、近年で最も多い年の1つとなった。オランダとドイツは引き続き、EU域外からの生鮮ブドウの主要な輸入国である。一方、ポーランドは昨年の輸入量が4万8千トンで3位にランクされた。しかし、野菜や果実の輸入国としてのポーランドの役割は世界市場で拡大してきているものの、ポーランドにおけるエジプト産ブドウの存在感は限定的である。

北アフリカと東欧との直接取引を増やすため、11月14日にワルシャワで、EU地域のスーパーマーケットチェーンとエジプト及びモロッコの野菜・果実供給業者との交渉が開催される。